

令和6年度 学校評価(前期)

報告書



令和6年7月

伊予市立双海中学校

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R5.12月肯定率
		○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者						4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
1 教育課程・学習指導	・「分かる・できたを実感する授業」「考える授業」「伸びる授業」の実践	①	○授業では、発表、実験、制作等自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や体験活動の時間がよくある。 ◎双海中では、授業で自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や様々な体験活動を、よく実施している。 □本校では、「表現力」「読解力」の育成のため、各教科や総合的な学習等において、適切な言語活動や体験的活動を実施している。	A	【考察】 生徒・保護者・教職員ともに肯定率が高い。近年、表現力や思考力の向上を目指して授業改善に取り組んできたため高い肯定率を維持している。 【改善方策】 今後も引き続き、自分の考えをきちんと書いたり、相手の考えを理解したりして、互いに考えを深め合うことを目指した学び合い学習の充実を図る。個人の資質や性格によるものかもしれないが、自分の考えを口頭で述べるのが苦手な生徒がいるため、各教科の授業で、ICTを活用しながら自己表出をさせる活動を行い、まずは苦手意識を払拭していきたい。	生徒アンケート	◎	60	34	6	0	94	96	94
						保護者アンケート	◎	25	69	6	0	94		96
	教職員アンケート	◎	86	14	0	0	100	100						
	・個に応じたきめ細やかな指導や家庭学習の充実による基礎学力の定着と向上	②	○私は、話をしっかり聞いたり、ノートをとったりして、授業にまじめに取り組んでいる。 ◎お子さんは、真面目な学習態度で、授業に取り組んでいる。 □本校では、学習四原則の徹底を図り、基本的な学習習慣の育成に努めており、身に付いている。	A	【考察】 生徒・保護者ともに高い肯定率である。生徒自身は、「話をしっかり聞く」「真面目にノートをとる」等の基本的な学習習慣を意識しながら授業に臨んでいることが分かる。 【改善方策】 授業態度はよいが、準備物や提出物の忘れ物が多い特定の生徒がおり、このような生徒に対しては、家庭との連携を継続していく。現在のような落ち着いた授業が継続できるよう、教員の授業力を向上させて、「分かる授業」の実現をめざす。	生徒アンケート	◎	66	32	2	0	98	98	98
						保護者アンケート	◎	47	47	5	0	95		96
						教職員アンケート	◎	29	71	0	0	100		100
・生徒の学習状況の確実な見取りと目標・指導・評価の一体化	③	○日々の学習内容をある程度理解し、意欲をもって学習している。 ◎お子さんは、授業の内容がある程度理解できていて、意欲を持って学習している。 □自分は、生徒が意欲的に授業に取り組むように工夫し、「分かる・できた授業」、「考える授業」、「伸びる授業」になるよう、授業改善に取り組んでいる。	A	【考察】 保護者・教職員の肯定率が、昨年度の12月の調査時から向上している一方で、生徒の肯定率は下がっている。昨年より学習に課題を感じている生徒が増えている。 【改善方策】 低位の生徒も意欲をもって学習に臨めるように、励ましていく。これらの生徒は、小学校や全学年での学習内容が十分に身に付いていないことも多く、チームティーチングを行い、個に応じた指導やを行っており、今後も継続していく。	生徒アンケート	◎	54	30	14	2	84	93	91	
					保護者アンケート	◎	26	68	5	0	95		88	
					教職員アンケート	◎	43	57	0	0	100		100	
・学び合いによる言語活動や問題解決的な学習の充実	④	○私は、宿題や自主学習ノートにしっかり取り組み、家庭学習の習慣が身に付いている。 ◎お子さんは、宿題や自主学習ノート等、家庭学習の習慣が身に付いている。 □本校では、家庭学習習慣の指導に全校体制で取り組み、その定着を図っている。	C	【考察】 昨年度の12月の調査と比較して保護者の肯定率は向上したが、生徒の肯定率は減少している。家庭学習への取組が不十分であることを、生徒自身が自覚している。 【改善方策】 教科によっては、基礎学力の定着を企図して継続して小テストを実施している。また、継続して家庭学習課題の提出を求めている。だが、特定の生徒の提出状況が悪いため、家庭にもその状況を伝え、協力を仰ぐ必要がある。	生徒アンケート	○	14	50	30	6	64	79	87	
					保護者アンケート	○	26	47	21	5	74		60	
					教職員アンケート	◎	25	75	0	0	100		100	
・配慮を要する生徒への全校的な支援及び特別支援教育の推進	⑤	○先生は、日々の授業や質問タイムにおいて、分かりやすく教えてくれている。 ◎双海中では、日々の授業や学習相談等で分かりやすく教えてくれる。 □本校では、学習相談等やICTの活用により、個に応じたきめ細かな指導が行われている。	A	【考察】 少人数の学校であるため、生徒一人一人の学習の様子に目が届きやすく、授業中に生徒の課題を教師が把握しやすいため、高い肯定率となっている。一方で、もっと個別指導を求めている生徒が存在している。 【改善方策】 個別指導が必要な生徒には、チームティーチングを行っているが、授業はその間も進んでいくため、身に付かないことが増えていく。放課後等の時間を活用して補充学習を実施することも考えていきたいが、部活動との兼ね合いで、なかなか実現しづらい。	生徒アンケート	◎	66	30	4	0	96	97	93	
					保護者アンケート	◎	31	63	6	0	94		96	
					教職員アンケート	◎	50	50	0	0	100		100	
・ICT機器を活用した個別最適な学習指導の充実	⑥	○私は、地域の行事に積極的に参加している。 ◎双海中では、地域の自然や伝統行事等を重視しており、お子さんは地域行事に積極的に参加しようとしている。 □本校では、地域の人材や自然、伝統行事などの教育資源を活用し、生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。 ◇双海中では、地域の人材や自然、文化財、伝統行事等の教育資源が活用され、生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。	A	【考察】 公民館が主催している子ども教室や、地方祭や、ほたる祭り等のイベントに、生徒たちは様々な形で参加し、生き生きと活動することができている。 【改善方策】 地域行事が、生徒にとっては学校とは違う個性を発揮する場となっており、存在感を得ることにつながっている。だが、中学生ともなれば、小学生以下の子ども達の手本となり指導していく役割も期待されている。発達段階に応じた言動ができるよう、声掛けをしていく必要がある。	生徒アンケート	◎	74	18	8	0	92	94	89	
					保護者アンケート	◎	37	53	11	0	89		96	
					教職員アンケート	◎	88	13	0	0	100		100	
					地域有識者アンケート	◎	65	30	4	0	96		95	
学校関係者評価委員の所見	家庭学習の習慣や定着は、各家庭や生徒の状況等もあり、学校側の努力だけでは難しいこともある。あまり言い過ぎると負担感をもつ家庭や生徒もある。全員が同じ課題ではなく、個に応じて課題を与えるようにしてはどうか。										学校の対応	家庭によっては生徒の学習状況を十分把握できていないこともあり、課題の提出状況を、まめに家庭連絡して、家庭の教育を仰ぐ。また、学ぶ意欲を高めるため、読書を奨励していく。		

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒名、保護者19名、地域有識者26名、教職員8名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R5.12月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
2 心の教育	・「議論して考えを深める」特別の教科道徳の時間と人権・同和教育の充実	⑦ ○私は、仲間(先輩・後輩・友達)のことを思いやり、協力して物事をやり遂げようとしている。 ◎お子さんは、他の人への思いやりや、協力して物事をやり遂げようとする心が育っている。 □本校では、互いの思いやりや、協働する心の育成に努めている。	A	【考察】 各学年の行事や縦割りのグループでの全校行事、あるいは部活動において、多くの生徒にとって温かい人間関係が構築されていることが分かる。 【改善方策】 少人数の学級であるため、一度の人間関係のトラブルが長期間後を引くことが、本校の特徴である。些細な変化を教師が見逃さず、早期に対応するようにしていく必要がある。	生徒アンケート	◎	76	20	4	0	96	99	98
					保護者アンケート	◎	45	55	0	0	100		100
					教職員アンケート	◎	50	50	0	0	100		100
	・学校の教育活動全体を通じて行う感動体験による豊かな心と社会性の育成	⑧ ○私は道徳の時間(心の時間)に真剣に取り組む、自分自身を見つめ直す機会となっている。 ◎双海中では道徳教育に積極的に取り組み、豊かな心が育つよう努めている。 □本校は、道徳の時間を要に様々な場面で道徳性の育成を心掛け、豊かな心を育成している。 ◇双海中では、いろいろな機会をとらえて人権教育や道徳教育など豊かな心の育成に力を入れている。	A	【考察】 本校では、学級担任のみならず、全教職員で道徳の授業を行っている。また、掲示物等で道徳性を高める等の取組で、全教育課程での道徳教育を試みている。 【改善方策】 昨年度まで取組を継続させるとともに、人権教育を充実させていく。道徳教育は道徳の時間だけで行われるのではない。学校行事や学級活動、総合的な学習の時間が、道徳実践の場として機能するよう、関連性を意識した教育課程の編成を心掛けたい。	生徒アンケート	◎	76	22	0	2	98	98	93
					保護者アンケート	◎	50	44	6	0	94		95
					教職員アンケート	◎	57	43	0	0	100		100
					地域有識者アンケート	◎	50	50	0	0	100		95
	・生徒の自発的・自治的活動の活性化による仲間づくりとリーダー性の育成	⑨ ○私は、自分自身を大切にしており、今の自分が好きだ。 ◎お子さんは自分自身を大切にしており、自尊感情が育まれている。 □本校では、一人一人のよさを認め、達成感を味わわせ、生徒の自尊感情の育成に努めている。	A	【考察】 昨年12月の調査と比較すると、生徒の肯定率が12ポイント向上している。諸活動で自分の存在感を実感することができている。 【改善方策】 自己肯定感をもつためには、自分自身の達成感だけでなく、周囲からの賞賛や肯定的な言葉掛けの両方が必要である。すなわち、日々の活動の充実と豊かな人間関係の構築の指標としてこの項目を捉えることができる。その2点を今後も充実させていきたい。	生徒アンケート	◎	36	48	10	6	84	95	72
					保護者アンケート	◎	44	56	0	0	100		96
					教職員アンケート	◎	50	50	0	0	100		100
	・感謝の気持ちを基盤とした挨拶や言動による規律ある生活態度の育成	⑩ ○私は、他の人の人権を尊重し、人に差別的な態度や言動をとっていない。 ◎お子さんは他の人の人権を尊重し、差別的な態度や言動をとらないようにしている。 □本校は、人権・同和教育の視点に立った指導を随時行い、「人権意識」の涵養に努めている。	A	【考察】 生徒、保護者、教職員すべて肯定率が100%であり、充実した人権教育が行われており、生徒の言動を通してその成果も実感できるようになっている。 【改善方策】 双海地区公民館と協働して、1学期には地元出身の画家の方の講演会を行ったり、公民館長から同和問題に関するお話をさせていただいたりした。これらの学習を通して、周囲を啓発し、差別解消へ向けた取組ができるような資質を身に付けさせたい。	生徒アンケート	◎	80	20	0	0	100	100	100
					保護者アンケート	◎	50	50	0	0	100		92
教職員アンケート					◎	75	25	0	0	100	83		
学校関係者 評価委員の 所見	人権・同和問題に関わる学習や行事がたくさんあることによって、子ども達の心、特に人権に関わる心が育っていると思う。実践につながる成長を期待している。 自尊感情の育成については、肯定的な回答が増え、とてもよくなっている。これまで努力してきた結果が出てきている。ただ、自分が好きではない6%が心配である。やはり、自分が好きであれば他人にも優しくできる。よく話を聞いてあげられる環境が大切だろう。				学校の対応	2学期には学習の成果を生かした人権劇を、双海中フェスタ(文化祭)で上演する。保護者や地域への発信の機会としたい。問題を抱えている生徒と、じっくり対話できるように、教育相談の機会を設けたり、業務改善を進めたりしていきたい。							

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒名、保護者19名、地域有識者26名、教職員8名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R5.12月 肯定率		
							4	3	2	1	肯定率	全体肯定率			
4 健康安全 教育	・学校安全に関する危機管理意識の高揚と、安全指導の徹底による事故防止 ・心身を鍛え、健全育成と自己実現に資する部活動の推進 ・健康安全に関する指導の充実と、衛生的で安全な給食指導の徹底	⑯ ○双海中の部活動は意欲的に行われており、私もがんばって取り組んでいる。 ◎双海中は、部活動に意欲的に取り組み、その活動は充実している。 □本校の部活動は適切に運営され、生徒は意欲的に活動している。 ◇双海中では、部活動に意欲的に取り組み、その活動は充実している。	A	【考察】 1学期に開催された伊予地区総体により、バレーボール部と剣道部が愛媛県総体に出場することが決まった。バレーボール部は3年生が引退後、部員がいなくなるため、個人競技のクラブを新設することになっている。 【改善方策】 剣道競技では四国大会と全国大会に出場する生徒もおり、ますます部活動に対する志気も高まっていくと思われる。一方で、大会等の結果は目標であって、目的は人間作りであることを念頭に置き、生徒のモチベーションの違いを理解して、頑張っていることや成長していることを認め称揚し、生徒が充実感を持てる部活動経営を推進する。また、新設のクラブについても適切に運営していきたい。	生徒アンケート ◎	◎	84	12	2	2	96	96	96		
														92	
															100
															85
		⑰ ○私は、まわりの人が危険になるようなことはせず、安全に気をつけている。 ◎双海中は、安全指導が行われ、事故防止に努めている。 □本校は、学校安全に関する危機管理意識の高揚と、安全指導の徹底による事故防止がきちんと行われている。	A	【考察】 三者とも高い肯定率である。生徒は安全や危険防止を意識した学校生活を送ることができている。1学期には自転車通学生生のけがもあったため、指導をより丁寧にしていかなければならない。 【改善方策】 1学期の自転車通学生生のけがは大きなけがではなかった。しかし、今後も折に触れて指導を継続していく。児童生徒を守り育てる協議会では、小学校が行った通学路の危険箇所の状況をお知らせしたが、どこも安全に改修されていた。情報があつた場所には実際に足を運んで見るのが大切である。	生徒アンケート ◎	◎	86	14	0	0	100	98	96		
													100		
													100		
		⑱ ○私は健康に気をつけ、手洗い・うがいや給食時の衛生にも気をつけている。 ◎双海中では、健康や衛生管理の指導を適切に行い、生徒のけがや病気等に適切に対処している。 □本校は、生徒の健康維持のための適切な健康安全教育や衛生的で安全な給食指導の徹底を図っている。	A	【考察】 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5類に引き下げられたことにより、マスクの着用は個人の判断としている。熱中症の予防についても積極的に呼び掛けている。 【改善方策】 今夏も新型コロナウイルスの感染者数が、増加しており、感染症の心配は未だある。それ以上に心配なのは熱中症である。コロナウイルス感染症は現在流行している株は重症化しないが、熱中症は命に関わる。どのような症状がどういふ程度に当たるかを自分自身が自覚できていれば、ある程度対処することができる。考え、対処の仕方以外の啓発を行う。	生徒アンケート ◎	◎	84	14	2	0	98	90	98		
													96		
													100		
		⑲ ○私は、登下校の時、交通ルールを守り、安全な通学ができている。 ◎双海中では、登下校の安全指導をしっかりと行い、生徒が安全かつ安心して通学できるように努めている。 □本校では、登下校の安全指導をしっかりと行い、生徒が安全かつ安心して通学できるように努めている。 ◇双海中では、登下校の安全指導をしっかりと行い、生徒が安全かつ安心して通学できるように努めている。	A	【考察】 高い肯定率であるが、生徒の交通マナーや危機意識については、普段からの継続した指導が大切である。そのため、多くの生徒が、安全に留意して登校することができている。 【改善方策】 双海地域は、平日よりも休日の方が交通量が多くなる。そのため、家庭や地域で過ごすときにも、事故に遭わないように、自分で適切に安全について判断できるよう指導する必要がある。特に、道の駅ふたみシーサイド公園周辺やJR下灘駅周辺の状況にあつた具体的な安全指導をしなければならない。	生徒アンケート ◎	◎	88	10	0	2	98	98	100		
													92		
													100		
													91		
	学校関係者 評価委員の 所見	登下校に時間がかかるときがある。早く帰宅するように下校時に促してほしい。自転車に荷物を縛るのが苦手な子がいて、よくタイヤに絡まっているらしい。そのような指導も必要である。			学校の対応	7月の大雨で、高野川で土砂崩れが発生した。安全に生徒が登下校できるよう、道路の状況や個人の登下校の様子に応じて、声掛けをしていく。また、教員が通学路の状況や登下校の様子を定期的に見に行く。									

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒名、保護者19名、地域有識者26名、教職員8名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R5.12月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	
6 研修・ 管理運営	資質・能力の向上、人的・物的・事務管理	⑳ □本校では、適切な研修が実施され、教職員の資質・能力の向上や自己研修に役立っている。	A	【考察】 今年度、愛媛県人権教育課の訪問をしていただくことになっており、人権に関わる問題やその指導に関する教員研修を行った。 【改善方策】 夏季休業中に指導案審議をして、よりよい人権指導の在り方について、教職員全員で研修を深めていきたい。また、そのことを、子ども達の感性・理解・実践力の向上につなげていきたい。	教職員アンケート	◎	38	63	0	0	100	100
		㉑ □本校は、連絡・報告・相談を的確に行い、服務規律を遵守し、協働体制の確立に努めている。	A	【考察】 本校では、職員会において情報共有が行われており、学校運営上の体制が機能している。服務規律の遵守も、各自の自覚のもと、確実に守られている。 【改善方策】 本年度は、今春の異動は少なく、教職員同士の人間関係が構築されたうえで諸活動に取り組むことができている。これまで通りに性別や経験年数に関わらず、共通理解のもとで対応していきたい。	教職員アンケート	◎	75	25	0	0	100	100
		㉒ □本校の職員室の雰囲気は温かく活力のある職場環境となっている。	A	【考察】 生徒の情報交換を中心に、教職員間で多くの会話がなされ、明るく活気のある職場となっている。互いの業務にも気を配り、協力し合う風土もある。 【改善方策】 本校は小規模の学校であり、一人が受け持つ校務の数が、大規模校に比べると多く、多忙感がある一方、全教職員が積極的に学校運営に参画し、自己有用感をもつことができている。	教職員アンケート	◎	63	38	0	0	100	100
		㉓ □本校では、適切な物的管理と事務管理が行われている。	A	【考察】 会計に関しては、ダブルチェックまたはトリプルチェックする体制となっており、適切に処理されている。備品の点検も定期的実施している。 【改善方策】 会計に関して、10月からは、振込手数料を銀行から要求されるようになるため、業者との現金のやりとりが必要となる。未納者がいた場合には、その対応が煩雑となるため、負担が増えるのではないかと危惧している。	教職員アンケート	◎	63	38	0	0	100	100
		㉔ □自分は、業務改善や長時間労働にならないことを意識した働き方ができている。	B	【考察】 おおむねワークライフバランスを意識して勤務することができているが、ひと月の超過勤務時間が80時間を超える教職員が、毎月数名いる。 【改善方策】 超過勤務時間が多くなる原因の大部分は、部活動の指導であり、今後の本市における部活動地域移行の動向を見極める必要がある。また、夜間に行われる会合も多く、記録に表れない超過勤務時間も多。	教職員アンケート	◎	0	88	0	13	88	88
学校関係者 評価委員の 所見	先生方の日々の関わりに感謝している。コミスクの一員として、協力できることは取り組んでいきたい。「時間外在校等時間が一月に80時間を超える先生が2～3人」とのことだが、是正に努めてほしい。				学校の対応	今年度から本格的に始まったコミュニティスクールだが、地域学校協働活動推進委員は精力的に取り組んでいただいているが、教員への制度の浸透が今ひとつである。積極的に地域の教育資源を取り入れ、教職員の負担軽減につなげたい。						

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒名、保護者19名、地域有識者26名、教職員8名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均